

ズレたがり

ホウグ カイル

初めまして。「劇団アレルゲン」代表の、ホウグと申します。劇団アレルゲンは、先月、八戸ポータルミュージアム「はっち」のシアターをお借りして、第1回公演を終えたばかりの、出来立てホヤホヤのフレッシュな劇団です。而して、「アレルゲン」をフレッシュな劇団にしているのは、その歴史の浅さばかりではありません。私たちは皆、市内の高校生なのです。私なんかは老けているので、「はっち」のスタッフの方との打ち合わせの時も、引率の先生と間違われてしまいました。他の劇団員は皆若々しく、元気に満ちています。

「高校演劇」という言葉があつて、これはそのまま、高校生が演劇をするという意味ですが、私たちは稽古に入る前の話し合いの段階から、「高校演劇」らしくない物を上演したい、という事で人を集めていました。しかし、集まる面々は学校では演劇部に所属していたりして、皆、普段は「高校演劇」にドブプリの人たちです。

では、高校生がやるのに高校生の演劇らしくないとは、どういう事だ、そりゃ哲学命題か、とひどく混乱を招きかねない話なのですが、要するに我々は、普段学校や部活動で接している演劇とは異質なものがやりたい、ちょっとズレた演劇好きの高校生たちなのです。

この公演の宣伝で八戸市内のラジオに出演させていただいたときに、お話を聞いてくださった方が、「高校演劇が独特なのは、教育のための演劇、という前提があるからだ」という様なことを話してくれました。演劇部の演劇が「教育のための演劇」であるならば、私たちは「表現のための演劇」がやりたい、という思いで集まりました。

「面白くなければテレビじゃない」ではありませんが、「自己表現しなければ芝居じゃない」と、アツく燃えていたのです。

さて、我々学生は理想に燃え、志は高く胸は熱いですが、懐は寂しく財布は薄く冷たいものです。そんな訳で、我々は大道具、いわゆるセツトを全く使わない演出で二本の芝居を上演しました。

お金が無いという現実的な理由以外にも、「物」を極限までそぎ落とすと、それは抽象的な肉体芸術になる、という考えがあつての事です。私は高校演劇の台本で、「何も無い舞台」というト書きで始まるものは、見た事がありませんでした。ですので、高校演劇らしくない事を目指した劇団のための芝居なら、この一行で台本を書き始める事が妥当だと考えました。何もない舞台なら、役者のセリフ一言で、サバンナにもアマゾンにもカッパドキアにもなります。「ここは、どこそこ」と言わせてしまえばいいのですから。

そういう作品を上演したがっている私たちにとって、「はっち」のシアターを使わせていただけた事

は、このうえない幸せでした。オープンから行かれた方も多いと思いますが、私たちが公演を行った「シアター2」は、近代美術館のように無機質な空間です。そのような無機質な空間だからこそ、この上演は可能だったと思います。

元々、私が「部活は引退したけど、高校生のうちにもつかいぐらい芝居やりたいな」という軽い気持ちで言い出した劇団が、多くの人を巻き込んで、たくさんの方にお世話になって、本当に上演に漕ぎ着けたというのは、心底有難いことです。高校生らしからぬ芝居をしたい等といいながら、高校生という立場故に、色々な方に、これから大人になって劇団を運営したならば絶対にしてもらえないような親切を、たくさんいただきました。

「劇団アレルゲン」は今後、毎年メンバーを変えながら、市内の高校生（もしかすると中学生なんかも交えて）がまた新たな公演に挑戦していきます。これからも、是非、優しく、しかし作品に関して厳しく、見守っていただければと思います。

Friday Amusement Negative Shop

○FANS895~899回「だべり場 2011.04」4/8,15,22,29 19:30 start 4/16,23 14:00 start 入場無料:夢を語る場です

演劇空間

スペースベン

■八戸市柏崎1-11-8
TEL. 0178-43-9876
FAX. 050-3588-8350
携帯. 080-6025-0990

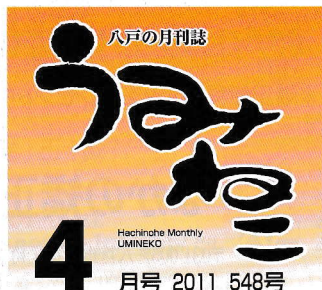
※特別番組以外全て午後7時30分～、料金/一般前売400円 高校生以下100円(当日100円増)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

HP <http://spaceben.com/>Eメール owner@spaceben.com

4月号好評発売中!

●今月のテーマエッセイ 私の好きな場所

鮫角灯台からの眺め.....	堀 徳 郎
スノーマン.....	法 官 廣 子
My Sweet, Sweet Home.....	石 田 博 継 子
種差海岸.....	種 橋 理 子
鮫角海岸段丘.....	高 上 勝 芳 子
川のほとり.....	森 田 啓 子



月号 2011 548号

●今月のインタビュー

青森県立八戸高等学校 前校長

大庭 文武 さん(60歳)に聞く

読む楽しみ 読物満載

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社
八戸市六日町10 いわとくパルコ3F
TEL・FAX 0178-44-6636